

富士運輸

最新式車両で「見える化」推進

富士運輸成田支店は車両90台体制で、スタッフは成田空港内を含めると100人強で24時間年中無休営業している。事業内容は、空港間のOLTをはじめとする航空貨物関連輸送を軸に、郵便輸送、大手メーカーの専属便、定期路線運行便を手がけている。航空貨物についてはOLTとともに、フォワーダーの貨物のエアライン搬入なども手掛けている。成田空港関連では、空港内の第2貨物代理店ビルに成田オペレーションセンターがある。



成田支店はOLTを含めて各種サービスを提供

OLTは成田〜関西国際空港をメインに、成田〜中部国際空港、関空〜福岡空港を実施。成田〜関空間の輸送比率は、以前は関空発7/成田発3という水準だったが、現在はこれが逆転。成田発6/関空発4となっている。成田空港到着の輸入貨物を関空に輸送するニーズが増えているという。また成田〜羽田間の輸送サービスも手掛けている。羽田のTIACT内にも2010年9月に事務所を開設している。

東日本地区担当の津田篤営業課長は「OLTについては、航空会社のフライトスケジュール次第で、ニーズも大きく変わる。フレキシブルに対応することが重要」と説明する。

OLTのサービス品質向上を目的に、自社車両の増加も検討している。現在、富士運輸には96インチ型パレット対応車両が約160台あるが、今年夏までに200台以上に拡大する計画。同タイプの車両は成田とともに、中部、関空、福岡の各拠点にも配備される計画だ。一般貨物にも対応するためのウイング車両の導入、温度調節機能を整備した空調車両の導入にも積極的だ。積載効率を上げるために、ボディの長さが10mのロング車両も積極的に導入している。郵便事業については、成田空港と東京国際郵便局（江東区新砂）を行き交うEMSの輸送や長距離郵便輸送を手がけている。大手メーカーの専属便については半導体製造装置や電子部品を輸送している。成田支店における4つのコア事業の売上構成は、ほぼ4分の1ずつ。津田課長は「特定の事業の環境が厳しくなっても、それ以外の事業分野でカバーできる強みがある」と説明する。富士運輸は現在580台の車両を保有し、国内保有ランキングでは40位内に入っている。さらに夏までに96インチパレット車を50台増車する。全社で安全輸送、コンプライアンス重視を方針として掲げるとともに「車両の見える化」を進めている。同社は「お客様はパソコンから、GPSによる車両位置情報や環境規制対応車両かどうかなどを含めた車両詳細

情報の確認ができる」としている。この仕組みは09年に経済産業省からIT推進企業の表彰を受けている。

**FUJI 富士運輸株式会社**

Fuji Transport Co., Ltd. since 1978

連絡先 ☎0476-90-2981



- ★成田・羽田・セントレア・関空・福岡空港間のOLTなら当社におまかせ下さい!
- ★航空コンテナ専用車(96パレット車)を160台保有!(23年5月までに200台体制) 国内保有台数ナンバー1です!
- ★超低床空調ウイング車20台保有(全てフルエアーススペンション仕様)
- ★保有車両の全てが全国の排気ガス規制を全てクリア(環境対策100%OK)
- ★トラックの位置情報検索システムが全車両に搭載しています。

GPSで荷物の位置や到着時間を正確にお伝えする「車両の見える化」を実施しています!



当社ホームページを一度だけ見て下さいclick!

<http://www.fujitransport.com>